

国際社会に社会主义経済原則の効率性を示した朝鮮民主主義人民共和国

ロシア・ダゲスタン・チュチェ思想・先軍政治研究協会会員

I. A. ポイコフ

21世紀2020年代の技術発展の基本方向は、高速インターネットにもとづくデジタル化であると言えるでしょう。コンピューター技術と通信手段の速やかな発展は、人間生活の主要部門にデジタル技術を急速に波及しました。生産と行政システムなどの管理過程を促進し簡素化させるデジタル技術は、経済と軍事、日常生活を改変させます。

国際専門家は、デジタル化を、規模において人類の姿を根本的に変化させた18世紀—19世紀の産業革命のようなものと見るべきだと発表しました。産業革命と同様にデジタル化も押しとどめることができません。

デジタル化が提供する可能性を社会主义偉業のために利用することが切実に必要です。

朝鮮民主主義人民共和国は、国際社会に、社会主义経済原則の効率性の立派な実例を示しました。金日成主席が創始したチュチェ思想を具現することにより、朝鮮民主主義人民共和国は、20世紀の末に直面した試練を誇らしく乗り越え、富強な強国を建設しうる確固たる土台を築きあげました。

社会主义経済は、先進的経験を創造的に受け入れ、技術現代化を導入および発展させ、人民経済の各部門を早いテンポで改善できる相当の伸縮性をもっています。デジタル技術を慎重に、そして合理的に導入すれば、社会主义経済をさらに推進して計画経済をより便利で容易に運営することができます。

社会主义は、先進的な社会制度です。その基礎には、社会と人間を総合的に発展させるという思想が置かれています。中央集権制と計画化は、社会主义経済の資本主義市場経済と異なる有利な側面です。

社会主义計画経済は、市場経済とは異なって、周期的に発生する体制危機の影響を受けず、自然発生的および調整不可能な要因が存在しません。

歴史は、中央集権的に、計画的に経済を発展させた国々で、驚くべき成果を収めたケースを知っています。

20世紀1930—1950年代に、ソ連でおこなわれた工業化は、経済的飛躍を起こして、国が最短期間に内に世界大国の隊列に加わるようにしました。

朝鮮で経済を発展させて苦難の行軍の後遺症を癒し、強力な戦争抑止力でもって、アメリカとその追随国圧力を成果的に退けることができたのは、まさ

に社会主義の経済原則を確実に具現し、生産部門の計画化体系を完成させた結果です。

デジタル技術を計画経済に取り入れる目的は、経済をより早く発展させ、より柔軟で効率的な経済にするところにあります。

デジタル化の方向の一つは、一部の機能を人間から特殊なプラットホームに移転することです。デジタル・プラットホームの導入は、情報加工速度を著しく高め、必要な計算の質を高めるようにします。デジタル技術を習得し、経済活動の指標の計画化体系にその要素を受け入れれば、資料の分析および加工時間を短縮し、計算の正確度を高め、誤謬の危険度を低くすることができます。強調したいことは、デジタル・プラットホームそのものが、それをもっとも合理的かつ理性的に適用できる人たちに優先権を与える技術であるということです。

デジタル技術の導入は、生産および情報分野で飛躍を起こすようにします。生産指標を計画化し（必要な場合）早く修正することにより、管理運営で提起される諸問題を最適化できるようにします。質的に新たな水準で情報を加工し伝達すべき必要性は、自らの独創的なデジタル・プラットホームをつくるて国の情報安全性を高め、アメリカに服従するインターネット大家たちの侵攻からデジタルの空間を守るようにします。

デジタル技術の利用は、現世界で起こっている世界的変化の方向によって規制されます。社会主義計画経済は、デジタル時代が提供する可能性を福祉増進に利用しうる必要なすべてのものをもっています。